

第5回長浜市教育振興基本計画策定委員会 会議録

I. 開催事項

1. 開催日時

令和2年12月2日（水） 午後6時00分～午後6時40分

2. 開催場所

多目的ルーム1（長浜市八幡東町632番地 長浜市役所1階）

3. 出席委員

委員 大橋松行
委員 川瀬久栄
委員 小谷貴之
委員 川瀬寛子
委員 草野佳代
委員 田川重雄
委員 林智子

4. 欠席委員

委員 前田康一
委員 伏木梨絵
委員 狩野翔平

5. 出席事務局職員

教育長	板山英信
教育部長	酒井猛文
次長兼教育総務課長	鵜飼康治
次長	清水伊佐雄
教育改革推進室長	武石晶子
教育指導課長	伊藤浩行
すこやか教育推進課長	大田久衛
幼児課長	山口百博
教育センター所長	野村幸弘
教育総務課長代理	今井健剛
教育総務課係長	西川洋輔

6. 傍聴者

なし

Ⅱ．会議次第

1．開 会

2．議 事

(1) パブリックコメントの実施結果について

(2) 第3期長浜市教育振興基本計画案の答申について

3．閉 会

Ⅲ 議事の概要

1．開 会

2．議 事

(1) パブリックコメントの実施結果について

事務局から、パブリックコメントの結果について説明及び報告があった。

特に意見は無く、今回の計画案をもって答申とすることと決定した。

(2) 第3期長浜市教育振興基本計画案の答申について

委員長から教育長に答申書が手渡された。

委員長：令和2年1月24日付長教総第345号で諮問のありました件については、当委員会において慎重に審議を重ね、別添第3期長浜市教育振興基本計画(案)のとおり取りまとめましたので、答申いたします。

今、日本では、少子高齢化社会の拡大、情報技術の著しい発展など、社会情勢が大きく急速に変化し続けています。さらに、昨年度から新型コロナウイルス感染拡大の影響により、今までと違う新しい生活様式が求められるようになりました。これらのことは教育を取り巻く環境にも大きな影響を及ぼすものであり、さまざまな課題に対して適切に対応することが必要です。今後はますます多様化する生活様式の中にあっても、基本目標にもあるように、つながりを大切にしながら、今般策定する第3期長浜市教育振興基本計画に基づき、適切に事業を展開していただくことを希望いたします。よろしくお願いいたします。

教育長：皆様、ありがとうございました。

委員長：では、ここで委員の皆様方から、長浜市の教育行政全般に関して、また感想等も含めまして、何でも結構でございますので、一言ずついただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

委員：第1回の会議以来、日程が合わず、なかなか出席させてもらえなくて申しわけございませんでした。

私も、深いことはわからないと言うと無責任と言われるかもしれませんが、健常者のみならず、しょうがいをお持ちの方に対しての教育の方向を考えていただけないかなという思いがございます。私の知っている方で、普通学校の特別支援教室に行って小中学校を卒業し、現在、普通高校に通学をしている方がいます。非常に人間的に幅も広がり、それに伴いましてほかの健常者の高校生も、その子に対して幅広い意味ですぐに手助けができるようになったということも目の当たりにしております。市でもいろんな御努力はしていただいていると思いますが、今まで以上にしょうがいを持つ方に対しての教育をお願いしたいと思っております。

委員：まちづくりセンターで、民間委託の子育て支援センターの支援員をさせていただいています。保育園から「長浜市運動あそび」のリーフレットをいただきまして、センターに来られた保護者の方に乳児編をお渡ししたら、みんな飛びつかれて、実際にこれをやってほしいという声がすごくありました。何でこういう運動あそびが大事なのかということを、私たちはよくわからないまゐるところがありまして、自分なりに聞いたことをお伝えさせてもらっているのですが、今、若いお母さん方は、ネットでいろんな情報を手に入れられるけれど、人からの情報もととても欲しがっておられます。社会の状況として、今は割とすぐ仕事に復帰されるので、子どもとかかわってられる今の内に、より深く何かを伝えたいという思いがすごく強いので、こういう資料をお伝えできる場がもっと増やせたらなと思います。

大事なことがいっぱい書いてあって、大切なことが本当に伝わるのですが、これを求めていらっしゃるお母さんは、この冊子が欲しいのではなくて、この冊子の内容を伝えてくれる人を求めていらっしゃるというのをすごく感じました。これはすごくありがたいです。

委員：今回このような機会をいただいたことを本当にありがたいことだと思っております。現在、子どもたちの発達課題に関する支援をさせていただいております。その中で、保護者の方、学校の方々から、そのお子さんにまつわるさまざまな情報をお聞きするにつれて、この子どもが将来どのように自立していくのかな、そのお子さんの可能性をどこまで私たちが想像して、今考え得る最大限の支援をどのようにしていけばいいのかなということを痛切に感じるような日々を送っております。

そういった中で、限られた情報の中かもしれないですが、それらの中から私たち支援者がそのお子さんの可能性を幾つ考えながら支援していけるのか、ということにつきまして、今後も微力ではございますが、力を尽くすことができたかなというようなことを改めて今回感じさせていただいたようなところでございます。どうもありがとうございました。

委員：今回参加させていただいて、こういうことをされているんだなということを初めて知った次第で、最初は何もわからずに参加させていただいたので

すが、大変勉強になりました。ありがとうございました。

今、子どもを小中一貫校に初めて行かせており、小学校から環境はあまり変わらず中学校になるのですが、僕が子どもの時には、小学校から中学校に上がったときは、もう少ししっかりしないといけないなという形がありましたし、先輩を敬わなければいけないなという感じがするのですが、それが薄れている感じがすごくあります。それにより、仲がよいというのはあるのですが、逆に敬語が使えていないという部分もすごく感じます。

あと、僕が子どもの時には、これをするときはこうするんだよという、道標をきちんと示していただいた先生が多かったのですが、今はその子の個性を生かすためにあまり言われたいといいますが、できていなくても、これが君は得意だから、これを頑張ろうね、といった形が大変多く見受けられます。もう少ししっかりと勉強の仕方ですとか、部活動のあり方といった道標を、中学校1年生の間に教えていただける環境を整えていただけると、なおいいのかなと最近感じています。何で部活動をしているのか、テスト期間中になぜ部活動がないのかもわかっていないことがあります。

本来ですとこの部活がない時間は、家に帰って勉強をしましょうということがわかると思うのですが、放課後部活がないから、家に友達を呼んで部活の練習をしていました。そのために時間があるんじゃないんだよと、わざわざ親が言わないとわからないということです。昔ですと、最初にテスト期間だから家に帰って部活じゃなくて勉強しなさいと厳しく教えていただいた。そういうのがないみたいで、個性を生かすことばかりにとらわれ過ぎて、最低限しなければいけないことを教えていただけていない感じが見受けられました。

小学生の気持ちのまま中学生になってしまっているというのもあるのかもしれないのですが、そういう部分の教育があまり行き届いていない感じを受けました。今後そういう面の指導をお願いしたいと思います。

小中一貫校でありがたいことも大変多いです。お兄さんの姿を見ているので、下の子も挨拶をきちっとしないといけないというのもできてきていますし、上の子も下の子の相手をするということで、見守るという力は今までよりついているのかなと感じています。

委員：最初にこちらの策定委員にとお声かけいただいたときに、どのようなことをさせていただくのかも恥ずかしながらわかっていなかったのですが、こちらの会に寄せていただいて感じましたのは、教育現場にかつて携わっていらした方が多いんですね。その中で、家庭の一主婦でいいのかな、市役所の方は人選を間違えられたんじゃないかな、場違いなところじゃないかなというような思いで参加させていただいていたこともあります。でも、回を重ねてまいりますと、こういった私のような一般の市民目線での考えも聞いていただける、教育の施策に吸い込んでいただけるというようなことに気づかせていただきましたことは、大変ありがたいことだったと思います。

それから、教育というのは、教壇の場だけじゃなくて、地域、家庭、全てということは当然ですが、私たち高齢者になってまいりますと、地域の子どもたち、本当に少なくなってきた貴重な子どもたちをみんなで育てていかないといけないというような思いを最近強く感じるようになってまいりました。私たちも微力ながら、長浜城歴史博物館に見えた子どもさんにはできるだけ楽しんでもらえるように、みんなで説明していこうという話もしているような状態です。本当にお役に立たなくて申しわけないのですが、ここでお話を伺わせていただいたこと、感謝しております。ありがとうございました。

委員：私は不登校の子どもたちの居場所を始めてもうすぐ3年になるのですが、このタイミングでこの委員会に参加させていただけて、すごく良かったと思っています。今年、私にとっては、コロナの影響もあって家にいたことで、にじっこの居場所に来た子どもたちが、学びのステップに進むという段階に来ているなということも気づきました。この夏からそういう形で小さな学校づくりを始めた年に、この会に参加できたことにすごく意味があったと思いました。

子どもたちとかかわっていて、今、虹の学び舎という学校には4人ぐらいの子どもたちが来ています。私は学校の現場も経験しているので、学校現場ではできなかった声のかかわりというか、子どもたちと少人数だからこそお互いのことを深く知って活動ができるということをすごく大事に感じています。さっきも可能性という言葉が出ていたのですが、私は、にじっこの子どもたちも、学び舎の子どもたちも可能性しか感じていないので、そこを潰さずに、居場所とかフリースクールじゃなくて、地域の学校に行っている子どもたちも可能性を潰さないように、大人たちがもっと話し合っていけたらなと思いました。

私はこの会の中で何回も言ってきたのですが、学校ありきではなくて、学校も、居場所も、フリースクールも、自宅も、全部が横並びにあって、全部が選択肢の一個だよということが当たり前の長浜市になっていったらいいなと思っています。

私は目の前の子どもたちを否定しないこと、認めることというのを一番大事にされていて、子どもだけじゃなくて保護者さんとか大人もみんな一緒だなと感じています。今、夏休みが明けてから、保護者の方からの相談の電話がずっと鳴りやまなくて、毎日2～3人ずつお話を聞いているのですが、本当に苦しんでおられる方がいらっしゃって、どうして不登校ということでこんなに苦しまなくちゃいけないんだろうというのが私の本音です。みんながもっと同じように理解して否定しないで認め合うということができていたら、こんなことで苦しまなくていいのに、という方がたくさん苦しんでおられて、しかも窓口が限られています。どこに相談に行ったらいいかもわからず、やっとたどり着いたという電話も多いので、行政も、学校も、民間の団体も、家庭も、そこはあなたの分野だからと区切るんじゃないで、もっと連携していけたらなということを思っています。

私自身も、この会に参加させていただいていろいろ意見を伝えられてすごく良かったですし、今言ってくださったのですが、教育となるとどうしても教育に関係のある方が集まりがちなので、もっと私はいろんな分野の方が、今後こういう会に参加されることが大事かなと思っています。これからも長浜市の教育が、子どもたちが一人ひとり可能性を潰されないでいきいきと楽しく学べる場になったらいいなと思っています。本当にこういう場をいただいて感謝しています。ありがとうございます。

委員長：どうもありがとうございました。私のほうからも御挨拶を申しあげたいと思います。

本年1月24日の第1回策定委員会から本日の委員会まで5回にわたりまして、委員の皆様方にはその都度真摯に御議論いただきまして、まことにありがとうございました。新型コロナ禍での審議となりましたが、全ての議案の審議を終え、先ほど板山教育長様に答申をお渡しすることができましたことを皆様方とともに喜びたいと思います。また、委員長として、委員の皆様方、各担当課の皆様方並びに事務局の皆様方に対して心から感謝申し上げます。

第3期教育振興基本計画は、これまでの基本計画を踏まえつつも、今日の社会情勢や教育環境等の変化によって生じた、またこれから生じる課題等に対応できるものと確信をいたしております。長浜市教育振興基本計画は、長浜市総合計画及び長浜市教育大綱を踏まえた教育行政分野における計画でありますので、教育委員会におかれましては、関連計画との整合性を保ちながら施策を推進していただきたいと存じます。このことをお願いいたしまして、御挨拶とさせていただきます。まことにありがとうございました。

事務局：委員長をはじめ委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、5回にわたり委員会に御出席いただきまして、また熱心に御審議いただき、ありがとうございます。

本日、計画案の答申をいただきましたので、この答申に基づき教育委員会の会議を経て市長の決裁を受ける予定をしております。また、後日、長浜市のホームページにおきまして完成した計画を公表する予定でございます。

なお、この会議の会議録につきましては、作成でき次第、委員の皆様に送らせていただきますので、改めて御確認をいただきたいと思います。

本日をもちまして計画案の作成が終了することとなりますので、策定委員会設置要綱第3条第2項の規定に基づきまして、この委員会を解散させていただきますこととなります。

ここで、最後に板山教育長から皆様に御礼の挨拶を申し上げます。

教育長：失礼いたします。一言御礼の御挨拶を申しあげたいと思います。

皆様には、本当に御多忙の中、本委員会に御出席いただきまして熱心に御議論いただきまして、本当にありがとうございました。資料を見ていますと、第1回目が1月24日ということで、恐らく皆さんも私も、1回目のときには、

まさかこの令和2年度がこういう展開になるということは予想していなかったんじゃないかなと思います。恐らくこういうコロナ禍がなければ、東京オリンピックも開会されて、人生の中で一つ大きな記念になる年だったのだろうと思います。外出さえはばかれるような時期でございましたが、5回にわたりまして御出席賜りまして、本当にありがとうございます。皆様方に議論していただきました計画につきましては、それを有効性のある実行に移していくのは我々の責務でございますので、懸命にこれからまた取り組んでまいりたいと思います。

今年度、文部科学省がGIGAスクール構想というのを大々的に打ち出しまして、学校の教育環境が本当に大きく変わっていく年となりました。来年の令和3年度には、恐らく長浜市内の全小中学校の子どもたちにもタブレット端末が1人1台行き渡り、現在もWi-Fiの設備ですとか、そういったものはほとんど整備が終了していますので、違った形の教育が展開されるという期待を持って取り組んでいるところでございます。そういう中で、この第3期長浜市教育振興基本計画の果たす役割というのは、私は非常に大きなものになると考えております。

私も教育長の任期の最終年度でございまして、私の人生を振り返ってみると、何かこういう波乱万丈に巡り合うのが私の運命なのかなというふうにも思うのですが、教育長に就任させていただきまして、心掛けましたのは、先ほどの御意見にもありましたが、長浜養護学校の校長先生とは非常に懇意にさせていただきまして、機会あるごとに、養護学校へお邪魔しまして、最初は特に大した意図もなかったのですが、行っているうちに、行かないといけなくなりました。県立の学校ですが、長浜市の小学生や中学生がいる学校なんです。「養護学校に行っているんですか、じゃあ私ら関係なくて」、それは違うだろうと。ここにいる子どもたちをしっかりと見ることが私の仕事のまず原点の一つになるなというのを強く思いました。インクルーシブ教育とかそういうこともあわせて取り組んでおりますが、この子どもたちのことを頭から離したら、これは最大の汚点を残すなという思いがあります。

2つ目でございますけれども、これは以前も教育委員会事務局で勤務していたときから心がけていたのですが、特別支援学級というのは、肢体不自由とか、病弱とか、いろんなしょうがいを持っているお子さんが入ったりします。年に1回、ウッディパル余呉で1泊2日の合宿をするんです。私は欠かさず行っていますし、昨年は市長にもお願いしまして直接見ていただきました。何で見ていただいたのかというと、子どもたちが満面の笑顔で活動しているのです。教員OBの私の元同僚だった者が手品みたいなものを見ると、わーっと手をたたいて喜んでいる。なぜか。彼らは、主役である、ここは自分たちの場所である、ということを実感しているからです。でも、その笑顔が果たして在籍校に行ったらあるんだろうか。なかったとしたら、これはだめだということを

強く思っています。

今回の計画にもいろんな形で盛り込んでおりますが、学校に行きづらい子、行けない子、行かない子、またいろんなしょうがいを抱えている子、そういう子どもたちが手を差し伸べてと言っているならば、真っ先に手を差し伸べるのが教育行政に携わる者の使命だと私は思います。そういうふうにして長浜市の教育を進めていかなくてはいけないし、学校・園の先生方とともに今後も頑張っていていきたいと思っております。

現在、1万4,000名の校園に通っている子どもたちが長浜市にいます。いつも私は部下の職員に言うのですが、お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、お兄さん、お姉さんを入れると、12万人弱の長浜市民の約半分がここに、非常に強い関心を持っているだろうと思うのです。幼稚園や保育園や小学校や中学校に行っていない人は誰もいないのです。みんな経験者なんです。長浜市に入札事務をしている契約検査課という部署があります。入札を経験したことがある人はそんなにいないでしょう。でも、小学校へ行っていない人はいないということです。みんな経験者で、自分の一番大切に思う人がかかわっている。これが教育委員会だと思います。だから当然、狭い教員の中だけ、学校・園の中だけの話し合いで進めるんじゃない。いろんな人から意見を頂戴して、一緒にやっていきましょう、できることは協力してくださいという姿勢で取り組まなくてはならないと強く思っているところでございます。

委員の皆様から頂戴いたしましたご提言・ご意見をもとに、今後、長浜市の子どもたちが長浜市に生まれて育って良かったと思えるような、実感できるような、そういう教育行政を少しでも実現させていきたいという思いでございます。今後とも皆様方のお力添えをお願いいたしまして、この1年間のご協力に感謝申しあげ、私からの閉会の言葉にかえさせていただきます。まことにありがとうございました。

3. 閉 会